

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果ダイジェスト

評価結果ダイジェスト



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評

▼サービス分析結果

▼利用者調査結果

▼事業者のコメント

平成19年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	ワークセンター大地
評価機関名称	株式会社 地域計画連合
評価者	修了者No.H0404012 修了者No.H0404014 修了者No.H0502040 修了者No.H0201025
評価実施期間	2007年7月20日～2008年3月5日

全体の評価講評

▶ 詳細はこちらから

💡特に良いと思う点

- ・利用者ニーズをふまえ幅広い障害程度に対応したグループ制での活動
- ・地域や社会への情報発信による開かれた事業展開
- ・事業所全体の業務の再評価を通じた職員の働きがいの向上

✓さらなる改善が望まれる点

- ・自立支援法を踏まえた事業所としての中長期方針の提案
- ・記録への認識と有効活用(IT化推進による本来業務へのシフト)
- ・より個別対応を必要とする利用者へのプログラムの構築

[このページの一番上へ](#)

サービス分析結果

▶ 詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A
【講評】 詳細はこちら ・年度末に面談を経て作成される個別支援計画にもとづいて、グループ単位で支援している... ・現在自閉症の利用者が全体の半分に達しており、一人ひとり異なる特徴があり、個別の対... ・事業所内または、外での生活の場面で対人関係に困難をもつ利用者への対応として、トラ...	
2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら ・授産活動の選択は、個別支援計画や個別の利用者家族面談などで作業の希望や要望を聞き... ・利用者一人ひとりのニーズに応えるために、面談や連絡帳などで利用者、家族の意向を聞... ・作業工賃は工賃評価表で評価され決められる。工賃や工賃評価のための説明書は利用者...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら ・給食は法人内の給食部門で提供している。障害者自立支援法への移行にともない、調理が... ・食事がゆっくりの利用者や介助が必要な利用者にはペースに合わせて食事時間の設定をし... ・食事時間はグループによっては大食堂ではなく、活動室で利用者同士話をしながら食事が...	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】 詳細はこちら ・排泄誘導が必要な利用者には時間をみて声かけをしている。歯磨き援助は昼食後、現在1...	

- ・身の回りのことについては個別支援計画に記載され、利用者の個別のニーズに応じた援助...
- ・通所は公共交通機関利用、又は徒歩など自力で行うことを原則としているが、利用者の状...

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・健康診断は年2回の内科検診、年1回の歯科検診、耳鼻科検診で行われている。また、法...
- ・通院や服薬に関する助言は看護師と協議して行っている。必要に応じて主治医と連絡を取...
- ・服薬援助は家族と連携をとり、連絡帳で確認することになっている。毎日連絡帳に添付さ...

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・各グループごとに毎月1回の外出プログラムのためのアンケートを実施し、利用者の意向...
- ・作業部屋は採光、換気等に配慮している。また、音に敏感な利用者が多いため、部屋を細...
- ・パンの製造販売をしているグループはエンジョイタイムとして月1回半日のレクリエーシ...

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・家族との連携は連絡帳を通じて行っている。職員は毎日の利用者の様子について細かく伝...
- ・事業所の現況や、利用者の日常の様子は広報誌「まめのきもち」で伝えている。また、家...
- ・毎年利用アンケート調査を家族に実施し、細かい項目を設け事業所の活動についての意見...

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・土曜日曜の休日の行事を行う市内サポートネットの情報や、サークル活動のお知らせは利...
- ・ガイドヘルパー制度やショートステイ制度の情報を知らせ利用を勧めるなど、利用者の状...

評点の内容
▶ [詳細はこちらから](#)

[このページの一番上へ](#)

利用者調査結果

▶ [詳細はこちらから](#)

※読み上げソフトをご利用のかたへ
パーセンテージの読み上げは「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「無回答」の
順番で読み上げられます。

有効回答者数/利用者総数
13/49

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

1. 仕事など日常の活動はやりがいがあるか	76.0%	23.0%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
2. 工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されているか	100.0%		どちらともいえない:0.0%	いいえ:0.0%
3. 必要なとき職員からの相談・支援は十分か	69.0%	30.0%	どちらともいえない:0.0%	無回答・非該当:0.0%
4. 施設の設備は安心して使えるか	92.0%	7.0%	どちらともいえない:0.0%	いいえ:0.0%
5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	76.0%	15.0%	7.0%	無回答・非該当:0.0%
6. 利用者の気持ちは尊重されているか	76.0%	23.0%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
7. 職員の対応は丁寧か	92.0%	7.0%	どちらともいえない:0.0%	無回答・非該当:0.0%
8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望をきかれているか	76.0%	7.0%	15.0%	いいえ:0.0%
9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか	66.0%	22.0%	11.0%	無回答・非該当:0.0%

10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	はい:0.0% どちらともいえない:0.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
11. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか	53.0% 7.0% 38.0% 無回答・非該当:0.0%
12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか	69.0% 23.0% 7.0% 無回答・非該当:0.0%
13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	76.0% 23.0% どちらともいえない:0.0% 無回答・非該当:0.0%

はい どちらともいえない いいえ 無回答・非該当

[このページの一番上へ](#)

事業者のコメント

* 以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 全体の評価講評

全体の評価講評

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評

▼コメント

平成19年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	ワークセンター大地
評価機関名称	株式会社 地域計画連合
評価者	修了者No.H0404012 修了者No.H0404014 修了者No.H0502040 修了者No.H0201025
評価実施期間	2007年7月20日～2008年3月5日

全体の評価講評

特に良いと思う点

・利用者ニーズをふまえ幅広い障害程度に対応したグループ制での活動

本施設においては、障害の程度が比較的軽度から重度の利用者まで幅広く受け入れを行っている。多様な利用者一人ひとりに適切な活動の機会や場所を提供するため、障害の程度により、「K」・「C」・「T」・「P」と4グループに分けて活動している。グループ別の活動を行うことにより、目的が明確になり、一つひとつの活動が深まるなど、職員のやりがいにもつながっている。また、利用者家族アンケート調査の結果を受けて、活動グループごとの事業計画書を作成し、家族や利用者に対して、方針やサービス内容を明確に示している。

・地域や社会への情報発信による開かれた事業展開

グループ活動の一つとして、製パン・喫茶店業務・出張販売・街頭販売などを行っている。製パン部門では全国大会に参加し、よい成績を収め、マスコミにも報道された。それが利用者の就労へのモチベーションの向上につながり、結果として製パン事業の売り上げが50%近く上昇した。このグループの月平均工賃は20,143円で、今年度は更に、時給で60円アップを目指している。焼きたてのパンを直売する喫茶室「パールブーケ」が1階にあり、市民が多く集う。喫茶スペースを活用したイベントの企画、宣伝も行い、地域の理解と交流の場となっている。

・事業所全体の業務の再評価を通じた職員の働きがいの向上

利用者活動のグループ化によって、職員の権限が強化され、事業所運営への参画度が高まった。組織は、ピラミッド型ではないフラットな形態を取っており、今年度ワークショップを行い、「施設別支援内容一覧」・「各施設の支援内容の現状調査」「相談支援についてのワーキングチーム」という三冊の報告書を作成し、それをもとに中長期計画の検討につなげた。編集に関わった職員の意識が向上し、現場サイドの視点だけではなく、事業所全体・法人全体という俯瞰した視点を持つようになった。意見も活発に出るようになりモチベーションの向上につながった。

さらなる改善が望まれる点

・自立支援法を踏まえた事業所としての中長期方針の提案

「大地」では障害の程度に応じてグループ分けでサービスの提供を行っているが、自立支援法への移行に際しては、経営的な側面から、新たに組織の再編が必須となっている。このため、就労支援・生活支援・身体介護と多岐に及ぶサービスを同法人内の他事業所との整合性を考え、検討している。現在、法人や各事業所で、理念や中長期の方向性についての討議が続いているが、グループ化した事業展開など、事業所の強みを活かしつつ、自立支援法に対応する方向性を見いだされ、より良いサービスの向上へとつながることが期待される。

・記録への認識と有効活用(IT化推進による本来業務へのシフト)

職員の肉体的、精神的な負担を軽減するために、パソコンのLAN機能を有効である。事例の考察や職員同士の意見交換も可能になる。ここ数年パソコン化は進められており、規定集や書式、データなど文書のファイリングからパソコンへと移され、見たい時、使いたい時いつでもパソコンから取り出せるように改革されて来た。今後本部や各部門も含めてLAN構築が完成され事務の合理化が進めば、職員と利用者の支援の関わりを深めることにつながると思われる。

・より個別対応を必要とする利用者へのプログラムの構築

障害の程度によりグループ分けを行い支援しているが、比較的軽い利用者に関しては製パンの売上げの伸長、喫茶室の地域への認知度の向上などで大きな成果を上げ、利用者の生き甲斐にもつながっている。反対に比較的障害が重く、より個別的な対応を必要とする利用者が、その意思や意向が尊重され、安心感や安全感がもてるプログラムを環境面も含めてどのように構築して行かか今後の課題と考えられる。その実効によって障害の程度を超えて対応

できるより完成された施設に進展できるものと思われる。

[このページの一番上へ](#)

コメント

- ・事前説明にあたっては、平成19年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。
- ・分析シートは記入例を用意し、効果的、効率的に情報が整理できるような工夫を行っている。
- ・確認根拠資料は、訪問調査の1週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行った上で、訪問調査を実施し、当日は、事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。
- ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 組織マネジメント分析結果

組織マネジメント分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

- ▼リーダーシップと意思決定
- ▼経営における社会的責任
- ▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
- ▼計画の策定と着実な実行
- ▼職員と組織の能力向上
- ▼情報の保護・共有
- ▼カテゴリ1～7に関する活動成果

平成19年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	ワークセンター大地
評価機関名称	株式会社 地域計画連合
事業評価実施期間	2007年8月21日～2008年3月5日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A+
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A
【講評】詳細はこちら	
- 本事業所は、多様な障害者の支援に対応する同一法人の複合施設内にある。事業所活動は... - 法人の理念の見直しにともない、事業所理念・方針の見直しを検討している。本事業所に... - 施設長自らが業所全体の情報の共有化を痛感しており、職員間の情報の共有化のため、パ...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

このページの一番上へ

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A
3. 地域との関係機関との連携を図っている	A
【講評】詳細はこちら	
- 今年度は第三者評価を受審し、客観的に組織のあり方を見直している。また、ボランティ... - 地域への貢献を模索する中では、家族支援や、事業所の営業力強化など、従来の枠組みに... - 武蔵野事業者連絡会に参加し、法人の他の事業所などとの複合施設としての強みを活かし...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

このページの一番上へ

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A
【講評】詳細はこちら	
- 年一回の家族アンケート調査を行い、その分析の成果を、次年度の事業計画書に反映させ... - 東社協総会や研修、その他の研修に参加し、また福祉新聞等で情報を収集している。武蔵...	

- 年二回の苦情解決第三者委員会を開催し、対応の経過を報告しているが、家族からの申し...

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	B
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	A
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	A
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら ● 法人では、平成12年度に中長期計画を策定し、支援費制度、自立支援法と制度の大きな... ● 年度の事業計画書で方針は明記しており、さらに、事業所内の障害の程度によるグループ... ● ヒヤリハット情報は記録し、予防対策等を職員会議で確認している。事故発生後は職員会...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	B
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	評点
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	B
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	B
【講評】 詳細はこちら ● 昨年度末より、正規職員を対象として、新たな考課制度の導入に取り組んでおり、制度の... ● 職員一人ひとりの育成計画は策定しておらず、職員が主体的に研修に参加することを奨励... ● 職員の健康診断は年一度行っており、また年三回、職員の状況を把握するため、衛生委員...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	A
【講評】 詳細はこちら ● 法人内に蓄積された個人情報あるいは、稼働している情報システムについて、利用者のプ... ● 個人情報の保護に関する規定を整備し、利用目的はLAN上で常に関連できるように... ● 今年度よりLAN上にて「大地ページ」を開設し、データ上での情報の共有化に取り組ん...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら ● 自立支援法移行に向けて、施設の基本的あり方、方向性の確認づくりのための協議を進め...	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点

1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら 職員面談にて本人の自己申告により希望等を聴取している。個人別の育成計画は行ってい...	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら LANネットワーク上の情報の共有化を円滑に進めるために「大地ページ」を作成し運用...	
4. 事業所の財政等において向上している	評点
1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら ベーカリー販売等において商品開発や営業開拓等を実践している。一昨年より収益が確実...	
5. 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している	A
【改善の成果】 詳細はこちら 年一回、利用者家族向けアンケート調査を行っている。また家族連絡会を月一回、行っ...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > サービス分析結果

サービス分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼サービス提供のプロセス項目 ▼サービスの実施項目

平成19年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	ワークセンター大地
評価機関名称	株式会社 地域計画連合
事業評価実施期間	2007年8月21日～2008年3月5日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供	評点
1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している	A
【講評】詳細はこちら - 法人のパンフレット、広報誌は玄関に置かれ誰でも自由に手に取ることができる。入所希... - サービスの内容が変わったり、改定があった場合の説明書類は迅速に配布され、理解され... - 利用者の問い合わせや見学の要望には、柔軟に対応している。基本的にいつでも見学は可...	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから
サービスの開始・終了時の対応	評点
1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	A
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A
【講評】詳細はこちら - サービス開始時の面談において、家族同席で事業所のルール、各種サービス、負担費用等... - 面談記録と実習記録で事前に個別の情報は把握でき、利用者のアセスメントをするうえで... - 退所し別の施設に移行する場合の支援として、それまでの支援記録を申し送る「利用者状...	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから
個別状況に応じた計画策定・記録	評点
1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	A
2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している	A
3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	A
4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A
【講評】詳細はこちら - 利用者の心身状況や生活状況は統一されたアセスメントシートに細部にわたり記録されて... - 年度末に利用者及び家族と面談を実施し、個別支援計画の評価と次年度の計画に向けての... - 利用者に関する記録は、LANを活用しPC上で管理し全職員が必要に応じて閲覧できる...	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	評点
1. 利用者のプライバシー保護を徹底している	A
2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A
【講評】詳細はこちら - 利用者に関する情報は法人の個人情報保護規程で定められている。重要事項説明書では秘... - 日常の作業のベースや通所時間に特別な配慮を要する利用者があり、本人の希望と意思を... - 新人の職員教育の中で、利用者を尊重することは大前提であり、言葉、態度に関しての指...	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから
事業所業務の標準化	評点
1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	B
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	A
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	A
【講評】詳細はこちら - サービスの基本事項については利用契約書に明記され、マニュアルがある。日常の作業に... - 年度末に各グループの事業のまとめを行い見直しがされ、次年度のグループ事業計画に反...	

- 職員はLANを活用し、PC上で会議記録等を必要に応じて閲覧できるようにしている。...

評点の内容
 ▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A
【講評】詳細はこちら ● 年度末に面談を経て作成される個別支援計画にもとづいて、グループ単位で支援している... ● 現在自閉症の利用者が全体の半分に達しており、一人ひとり異なる特徴があり、個別の対... ● 事業所内または、外での生活の場面で対人関係に困難をもつ利用者への対応として、トラ...	
2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】詳細はこちら ● 授産活動の選択は、個別支援計画や個別の利用者家族面談などで作業の希望や要望を聞き... ● 利用者一人ひとりのニーズに応えるために、面談や連絡帳などで利用者、家族の意向を聞... ● 作業工賃は工賃評価表で評価され決められる。工賃や工賃評価のための説明書は利用者...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】詳細はこちら ● 給食は法人内の給食部門で提供している。障害者自立支援法への移行にともない、調理が... ● 食事がゆっくりの利用者や介助が必要な利用者にはペースに合わせて食事時間の設定をし... ● 食事時間はグループによっては大食堂ではなく、活動室で利用者同士話をしながら食事が...	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】詳細はこちら ● 排泄誘導が必要な利用者には時間をみて声かけをしている。歯磨き援助は昼食後、現在1... ● 身の回りのことについては個別支援計画に記載され、利用者の個別のニーズに応じた援助... ● 通所は公共交通機関利用、又は徒歩など自力で行うことを原則としているが、利用者の状...	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A
【講評】詳細はこちら ● 健康診断は年2回の内科検診、年1回の歯科検診、耳鼻科検診で行われている。また、法... ● 通院や服薬に関する助言は看護師と協議して行っている。必要に応じて主治医と連絡を取... ● 服薬援助は家族と連携をとり、連絡帳で確認することになっている。毎日連絡帳に添付き...	
6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	A
【講評】詳細はこちら ● 各グループごとに毎月1回の外出プログラムのためのアンケートを実施し、利用者の意向... ● 作業部屋は採光、換気等に配慮している。また、音に敏感な利用者が多いため、部屋を細... ● パンの製造販売をしているグループはエンジョイタイムとして月1回半日のレクリエーシ...	
7. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A
【講評】詳細はこちら ● 家族との連携は連絡帳を通じて行っている。職員は毎日の利用者の様子について細かく伝... ● 事業所の現況や、利用者の日常の様子は広報誌「まめのきもち」で伝えている。また、家... ● 毎年利用アンケート調査を家族に実施し、細かい項目を設け事業所の活動についての意見...	
8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A
【講評】詳細はこちら ● 土曜日曜の休日の行事を行う市内サポートネットの情報や、サークル活動のお知らせは利... ● ガイドヘルパー制度やショートステイ制度の情報を知らせ利用を勧めるなど、利用者の状...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)
[事業評価結果](#)
[組織マネジメント分析結果](#)
[サービス分析結果](#)
[利用者調査結果](#)
[事業者のコメント](#)
[評価の見方](#)
[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > 利用者調査結果

利用者調査結果



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

[▼調査概要](#)
[▼調査結果全体のコメント](#)
[▼調査結果](#)

平成19年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	ワークセンター大地
評価機関名称	株式会社 地域計画連合
利用者調査実施期間	2007年9月18日～2007年10月22日

調査概要

- **調査対象**: 調査日現在、聞き取り可能な利用者を対象とした。年齢は20歳未満2名、20歳代1名、30歳代7名、40歳代1名、50歳代以上2名であった。性別は男6名、女6名、無回答1名。入所年は2000年以降4名、1990年代7名、89年以前1名、無回答1名であった。
- **調査方法**: 聞き取り方式
アンケート方式。調査員が個別聞き取りで実施した。
- 利用者総数: 49人
- 共通評価項目による調査対象者数: 25人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数: 13人
- 利用者総数に対する回答者割合(%) : 26.5%
- 調査項目: [共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

調査結果全体のコメント

・総合的な満足度として、大変満足39%、満足が15%と、「大変満足」と「満足」で5割強を占めている。・設問の中で「はい」がもっとも多かったのは、「問2. 工賃・給料等の 支払いのしくみは、わかりやすく説明されています」で100%、「問7. 職員は、丁寧(乱暴な言葉を使ったり、命令したり、呼び捨てにしない)に接してくれますか」が92%となっている。・他方「いいえ」が多かったのは、「問11. あなたは不満や要望を職員に言いやすいですか」で38%、「問3. あなたが困ったときの、職員の相談や支援は十分ですか」で31%となっている。

[このページの一番上へ](#)

調査結果

1. 仕事など日常の活動はやりがいが持てるか

はい	10人	どちらともいえない	3人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

良い点は、仕事が牛乳パックの再生や缶つぶしなど疲れない、楽しい、仕事が生きがいなど好意的な意見があった。また、外出や喫茶店でお茶をするのを楽しみにしているという意見があった。

2. 工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されているか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

良い点は、多くが給料等の支払日を知っているという意見があった。
改善点は、いつ給料をもらえるのか、支払いの仕組みがわからないという意見があった。

3. 必要なとき職員からの相談・支援は十分か

はい	9人	どちらともいえない	0人	いいえ	4人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

良い点は、職員の人はやさしい、何でも聞いてくれるという意見があった。

4. 施設の設備は安心して使えるか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

良い点は、危ないところには近づかないように職員が教えてくれるという意見があった。

5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか

はい	10人	どちらともいえない	2人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

良い点は、プライバシーは守られていると思う意見が多かった。

6. 利用者の気持ちは尊重されているか

はい	10人	どちらともいえない	3人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

良い点は、気持ちを伝えたら職員の方が理解してくれるようになったという意見があった。

7. 職員の対応は丁寧か

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

改善点は、一部職員の対応が不十分なように感じるという意見があった。

8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望をきかれているか

はい	10人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

良い点は、保護者と一緒に話を聞いているという意見があった。
改善点は、緊張して話しにくいと感じているというような意見があった。

9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか

はい	6人	どちらともいえない	2人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

良い点は、保護者と一緒に面談をして、何となくわかったという意見があった。

10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

11. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか

はい	7人	どちらともいえない	1人	いいえ	5人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

良い点は、何でも言える、仲良くしている職員がいるという意見が多かった。
改善点は、職員に嫌われたくないから言い出しにくいと感じているというような意見があった。

12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか

はい	9人	どちらともいえない	3人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

良い点は、要望や不満を聞いてくれて十分に対応しているという意見が多かった。

13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか

はい	10人	どちらともいえない	0人	いいえ	3人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

仕組みは知っているが、実際はよく知らないという意見があった。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > リーダーシップと意思決定



リーダーシップと意思決定



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

本事業所は、多様な障害者の支援に対応する同一法人の複合施設内にある。事業所活動は独自性を保ちつつも、相互の連携により、利用者の活動の可能性を広げている。また、設立の経緯から、武蔵野市の福祉とのつながりが大きく、地域生活支援など、市の福祉行政における中核的な役割も担っている。支援費制度から障害者自立支援法へと激動期を迎える中で、今年度、法人としての中長期の動向を睨み、理念の見直しに着手している。

法人の理念の見直しにともない、事業所理念・方針の見直しを検討している。本事業所には、様々な障害の程度をもつ利用者に対し、障害程度に合わせた活動を重視しているが、自立支援法により大きく再編を迫られている。見直しにあたって、組織の現状把握・分析を職員とともにに行い、職員の組織の一員としての自覚の向上につながっている。

施設長自らが業所全体の情報の共有化を痛感しており、職員間の情報の共有化のため、パソコン上のリンクの構成をし、奮闘している。パソコンのリスクも十分承知しており、情報のバックアップ(ディスク・紙)にも神経を使っている。主任会議・チーフ会議・運営会議を経て意思決定を行っており、職員会議(非常勤職員を含む)や毎日のミーティングで職員に周知し、利用者やその家族にはおしらせ・家族連絡会などで説明している。

[このページの一番上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A
標準項目	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み	

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A ⁺
標準項目	○ 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	○ 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み	今年度から事業所内のネットワーク作りに着手し、パソコン上での情報の共有化の「新たな仕組み」を施設長自ら作成して、業務の効率化を進めている。この事業所は利用者の障害の程度が多様であり、自立支援法の実施にあたり、組織再編を検討している。検討にあたっての組織の現状把握・分析を職員とともにに行い、職員の組織の一員としての自覚が向上した。(検討中)

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A
標準項目	○ 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	○ 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	○ 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 経営における社会的責任



経営における社会的責任



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

今年度は第三者評価を受審し、客観的に組織のあり方を見直している。また、ボランティアや実習生の受け入れも積極的に行っているが、法人統一ではない「大地」の特徴をだしたマニュアルの作成を考慮し、来期に向け前進している。

地域への貢献を模索する中では、家族支援や、事業所の営業力強化など、従来の枠組みにとらわれない取り組みが行われている。施設1階にある喫茶室は、広く市民に開かれ日常的に近隣の住民が集うなど、法人の活動の一端を示す、象徴的な存在となっている。就労支援の一環として、利用者がパンの製造・喫茶の運営等を行い、地域との関係を深め、また、喫茶スペースでのミニコンサートなどの企画、地域祭りの企画など行っている。

武蔵野事業者連絡会に参加し、法人の他の事業所などとの複合施設としての強みを活かし、関係機関との連携や研修企画など行っている。

[このページの一番上へ](#)

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点	A	
標準項目	○	福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	○	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
A+の取り組み		

2-1-2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点	A	
標準項目	○	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	○	透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
A+の取り組み		

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点	A	
標準項目	○	事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
	○	地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
A+の取り組み		

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点	A	
標準項目	○	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している
	○	ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
	○	ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
A+の取り組み		

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評点	A	
	○	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している

標準項目		地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用



利用者意向や地域・事業環境の把握と活用



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

年一回の家族アンケート調査を行い、その分析の成果を、次年度の事業計画書に反映させている。また、日常の連絡ノートなどの手段を使い、家族の意向を汲み取っている。 利用者の意向は個別記録で把握し、他のグループへの活動参加などの考慮をしている。

東社協総会や研修、その他の研修に参加し、また福祉新聞等で情報を収集している。武蔵野市の福祉三団体改革基本方針などを参考とし、今後の法人及び事業所のあり方を検討している。

年二回の苦情解決第三者委員会を開催し、対応の経過を報告しているが、家族からの申し出がほとんどであるため、利用者向けの運用の具体化を検討している。

[このページの一番上へ](#)

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A	
標準項目		苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝える
		利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取り組み		

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A	
標準項目		利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
		事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
		利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取り組み		

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	A	
標準項目		地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
		福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
		事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 計画の策定と着実な実行



計画の策定と着実な実行



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

法人では、平成12年度に中長期計画を策定し、支援費制度、自立支援法と制度の大きな変更が相次ぐ中で、新たな中長期計画の方向を模索している段階となっている。現在、法人で各施設長をメンバーとするワーキングチームを編成し、検討を行っている。多様な事業所が同一の建物に複合している強みを活かし、積極的に事業所の中長期計画案を打ち出していく姿勢を期待したい。

年度の事業計画書で方針は明記しており、さらに、事業所内の障害の程度によるグループ分けが行われているが、そのグループ別の事業計画書も作成しており、きめ細かな内容になっている。月間予定表を含む年間予定表で計画的に活動に取り組んでいる。個別支援計画は、担当グループで協議策定し、利用者・家族の同意の下に確定している。就労訓練か生活支援かの選択もあり、また、就労訓練の種類分けでは利用者の意向にそって途中での見直しも行っている。

ヒヤリハット情報は記録し、予防対策等を職員会議で確認している。事故発生後は職員会議で原因背景の把握と対策について検討している。また、事例検討会も市役所職員も含めた法人全職員対象に行っている。今年度、リスクマネージメント委員会を設置し、各種対応マニュアルを作成中である。

[このページの一番上へ](#)

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点	B	
標準項目	✕	理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	○	年度単位の計画を策定している
	○	短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み		

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点	A	
標準項目	○	課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	○	課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	○	計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
	○	計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
A+の取り組み		

4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	○	計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	○	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している
	○	計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
A+の取り組み		

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	○	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
A+の取り組み		

		再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 職員と組織の能力向上



職員と組織の能力向上



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

昨年度末より、正規職員を対象として、新たな考課制度の導入に取り組んでおり、制度の定着、評価報酬との連動に向けて、考課者講習等を実施している模索段階にある。事業所の現場は、正規職員のみならず、多数の臨時職員や嘱託職員によっても支えられている。多くの職員のやりがいや、モチベーションの向上を図る上では、正規職員と臨時職員等との人事制度や評価体系上の位置づけについての見直しや再検討が必要とされている。事業所内では、自己申告書に基づく人員配置に努めている。

職員一人ひとりの育成計画は策定しておらず、職員が主体的に研修に参加することを奨励している。その研修報告書を会議で報告しているが、LAN上にて報告書の閲覧を考えている。また研修希望もLAN上に載せ、他の職員にアピールしモチベーションの維持に役立てたいと考えている。来期でそれらを達成できたら、なお一層の効果が期待できる。

職員の健康診断は年一度行っており、また年三回、職員の状況を把握するため、衛生委員会で話し合っている。しかし、職員数に余裕がないまま業務活動をしており、なおかつ利用者の利用時間が午後4時までであり、休憩時間を実質取ることが出来ないでいる。今年度は施設長の発案で、ワークショップをおこない職員のモチベーションを高めた。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A	
標準項目	○	事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	○	事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	○	適材適所の人員配置に取り組んでいる
A+の取り組み		

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	B	
標準項目	○	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	×	職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している
	×	個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている
	○	職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	○	職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A+の取り組み		

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	B	
標準項目	×	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	○	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	○	職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
A+の取り組み		

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	B	
標準項目	×	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている
	○	就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる

	○	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	○	福利厚生制度の充実に取り組んでいる
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 情報の保護・共有



情報の保護・共有



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

法人内に蓄積された個人情報あるいは、稼働している情報システムについて、利用者のプライバシーを確保するため、法人情報セキュリティ対策の統一かつ、基本的な方針を規定する取り扱い規定を定め、法人全体で運用を行っている。LANにつながるパソコンにはパスワードを設定し、管理者のパソコンには管理者権限のパスワードを設定。重要な情報は常に関覧できるように必要に応じて更新している。

個人情報の保護に関する規定を整備し、利用目的はLAN上で常に関覧できるようになっている。個人情報保護の理解を即するためのチラシを、ボランティアや実習生に対しても掲示し、説明をしている。

今年度よりLAN上に「大地ページ」を開設し、データ上での情報の共有化に取り組んでおり、全職員がネットワークを有効に活用するように促している。予定表などに各自が書き込めるようにしてあり、研修の予定・勤務の予定などに活用している。しかしまだ、各職員がネットワークになじんでおらず、講習会などを開催し、浸透を図るようになれば、組織の効率も格段に上がることが期待される。

[このページの一番上へ](#)

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A
標準項目	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
	保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み	

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

評点	A
標準項目	事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	個人情報の保護に関する規定を明示している
	開示請求に対する対応方法を明示している
	個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > カテゴリー1～7に関する活動成果



カテゴリー1～7に関する活動成果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

評点	A
改善の成果	自立支援法移行に向けて、施設の基本的あり方、方向性の確認づくりのための協議を進めている。「大地」の基本的なあり方についても議論を進めている

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

評点	A
改善の成果	職員面談にて本人の自己申告により希望等を聴取している。個人別の育成計画は行っていないが、組織の再編に向け、今年度はワークショップを行い、その結果、職員の意識が向上した。

[このページの一番上へ](#)

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

評点	A
改善の成果	LANネットワーク上の情報の共有化を円滑に進めるために「大地ページ」を作成し運用している。データ上での予定表の共有化、会議記録、法人規定、重要情報の共有化がすすんだ。

[このページの一番上へ](#)

8-4-1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

評点	A
改善の成果	ベーカリー販売等において商品開発や営業開拓等を実践している。一昨年より収益が確実に伸びている。

[このページの一番上へ](#)

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している

- ・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

評点	A
改善の成果	年一回、利用者家族向けアンケート調査を行っている。また家族連絡会を月一回、行っている。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービス情報の提供



サービス情報の提供



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

法人のパンフレット、広報誌は玄関に置かれ誰でも自由に手に取ることができる。入所希望の利用者の見学や実習時、入所時には事業所の「利用のご案内」を配布している。利用者の特性を考慮して「利用のご案内」にはルビが打たれ理解しやすい文体で表現されている。更に、写真や絵などの入った事業所の様子のわかるパンフレットが用意されると、よりわかりやすくなると考えられる。

サービスの内容が変わったり、改定があった場合の説明書類は迅速に配布され、理解されやすい表現や文体になっている。また、配布するだけでなく、理解が深まるように説明をしている。月間の予定表は全員に配布されているが、文字を読むことによって理解が進み安心して予定をこなすことができる利用者には個別に専用のものが用意され、特性に合わせた表記になっている。

利用者の問い合わせや見学の要望には、柔軟に対応している。基本的にいつでも見学は可能で、利用希望者だけではなく、一般の見学にも応えている。見学等の窓口は施設長または、副施設長になっている。今後、問い合わせや見学受け入れのマニュアルを作り、記録を残し頻度や時期、対象の動向をつかみ、ニーズに応えやすくしていくことが期待される。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評価点	A
標準項目	利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの開始・終了時の対応



サービスの開始・終了時の対応

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

サービス開始時の面談において、家族同席で事業所のルール、各種サービス、負担費用等について記された重要事項説明書を説明し、同意を得て署名捺印を取り交わしている。本人が署名できない場合は本人の了解のもと家族が代筆している。面談記録には、利用者と家族の要望や意見を記録する欄があり記録されている。アセスメントシート作成時にその記録が反映されるしくみになっている。

面談記録と実習記録で事前に個別の情報は把握でき、利用者のアセスメントをするうえで重要な情報となる。それらを元に入所時には状況が細かく評価されるアセスメントシートを作成し、暫定的な支援計画も立てグループ職員の共通理解を図っている。利用開始直後は個別の事情に応じ、必ずしも毎日通所するのではなく、週3日など無理なく徐々に慣れるような配慮もしている。

退所し別の施設に移行する場合の支援として、それまでの支援記録を申し送る「利用者状況」を移行施設に提出している。また、必要に応じ移行施設への入所時に施設長と担当職員が利用者に行き、不安を軽減しスムーズに移行が行えるようにしている。サービス終了にいたる過程の手順書やマニュアルの明文化はされてなく、ケースに応じた対応となっているため整備をする必要性を事業所は認識している。

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A
標準項目	○ サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	○ サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	○ サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A
標準項目	○ サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	○ 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	○ サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	○ サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 個別状況に応じた計画策定・記録



個別状況に応じた計画策定・記録



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

利用者の心身状況や生活状況は統一されたアセスメントシートに細部にわたり記録されている。個別の面談記録が反映され課題やニーズについても記述されている。アセスメントシートはPCで管理され、LANを通じて職員が必要に応じて閲覧することができる。年に1度個別支援計画を作成する前に利用者の再評価をするため個別面談を経て支援評価表を作成している。

年度末に利用者及び家族と面談を実施し、個別支援計画の評価と次年度の計画に向けての意向について話をしている。文字理解のできる利用者のためにわかりやすく表記し、口頭では利用者の障害特性を考慮しポイントを絞って話をするようにしている。利用者の状況の変化に対応し計画の変更をする場合、職員全体で緊急にケース会議を行い確認し合い、利用者・家族の同意を得てから計画の変更をしている。

利用者に関する記録は、LANを活用しPC上で管理し全職員が必要に応じて閲覧できるようになっている。日誌、利用者記録は経緯が見えやすくする為にPC上でのファイルだけではなく紙ベースでのファイリングも行い保存している。利用者に変化があった場合や対応への注意を促したい場合は、LANを活用しケースの特記・引継ぎ事項にトピックマークをつけ確認ができるようにしている。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A
標準項目	○ 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
	○ 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	○ アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A
標準項目	○ 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	○ 計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
	○ 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
	○ 計画を緊急に変更する場合のしきりを整備している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A
標準項目	○ 利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある
	○ 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

--	--

評点	A	
標準項目	○	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
	○	申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

利用者に関する情報は法人の個人情報保護規程で定められている。重要事項説明書では秘密保持の項目、利用のご案内では情報公開と個人情報保護について説明されている。外部への情報の照会に対する同意は「個人情報の使用に係る同意書」により説明され署名捺印をするようになっている。また、利用者のプライバシーに配慮し、作業部屋は外部から見えにくいように対応し、更衣室は男女別で整備されている。排泄介助やシャワー浴介助などは同姓介助を徹底している。

日常の作業のペースや通所時間に特別な配慮を要する利用者があり、本人の希望と意思を尊重し、支援計画で計画した対応をしている。また、支援記録に利用者の気持ちや話した内容を細かく記録し、利用者一人ひとりの価値観に配慮した支援ができるよう理解を深める努力をしている。

新人の職員教育の中で、利用者を尊重することは大前提であり、言葉、態度に関しての指導は徹底している。活動がグループに分かれているが、グループごとに日々振り返りをし支援実態についてのミーティングも行っている。虐待被害の事例は今までないが、被害を確認できた場合は市障害者福祉課担当部署へ連絡し、障害者生活支援センターと連携して対応していくことになっている。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評価点	A
標準項目	- 利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている - 日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している - 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評価点	A
標準項目	- 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている) - 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している - 虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている - 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 事業所業務の標準化



事業所業務の標準化



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

サービスの基本事項については利用契約書に明記され、マニュアルがある。日常の作業についてはグループ別の活動となっており、各グループで作業手順書を整備している。余暇活動の計画も各グループ内で決定し、それぞれのニーズに合ったものになっている。特にベーカーリー部門の手順書はパートの職員や利用者にも理解ができるように細かく整備されている。

年度末に各グループの事業のまとめを行い見直しがされ、次年度のグループ事業計画に反映させている。まとめ、見直し、計画はグループごとに行い、各グループの職員が主体となって行っている。利用者間でのトラブルが少し大きな問題に発展したケースがあり、課題として取り上げ職員全員でワークショップの形で検証する取り組みを行った。原因・経過・対応を精査・分析することで、今後の利用者へのより良いサービス提供につながる取り組みとして評価される。

職員はLANを活用し、PC上で会議記録等を必要に応じて閲覧できるようにしている。職員全員への周知情報は毎日のミーティングや職員会議で報告している。また、職員の質の向上のために法人の各種研修制度が規程されている。その他外部研修等への参加は奨励されており、参加した職員による報告の機会を職員会議で設けている。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	B
標準項目	○ 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	○ 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
	× 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
	× 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	A
標準項目	○ 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
	○ 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
	○ 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	A
標準項目	○ 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
	○ 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
	○ 職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
	○ 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
	○ 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
A+の取り組み	

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの実施



サービスの実施



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している

講 評

年度末に面談を経て作成される個別支援計画にもとづいて、グループ単位で支援している。グループごとに個別支援計画のファイルが保管され、直近の職員は常に閲覧できるようにしている。

現在自閉症の利用者が全体の半分に達しており、一人ひとり異なる特徴があり、個別の対応が必須となっている。特に自閉症者のための視覚によるコミュニケーション手法などは取っていないが、一人ひとりの特性を理解し言葉のトーンや表情の工夫をすることでコミュニケーションが可能であり、作業の指示もスムーズに行えている。

事業所内または、外での生活の場面で対人関係に困難をもつ利用者への対応として、トラブル等が起きた場合、また本人からの相談があった場合はアドバイスをしている。推移を明確にするために事実関係の確認、経過、対応、考察を利用者記録に記述し、トラブルの場合は解決に向けて的確な支援をしている。

評価点	A
標準項目	個別の支援計画に基づいて支援を行っている
	利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
	自立生活に必要なさまざまな情報を提供している
	必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講 評

授産活動の選択は、個別支援計画や個別の利用者家族面談などで作業の希望や要望を聞き調整している。作業場所は利用者の特性や作業構造に合わせて整備されている。音に対して敏感な利用者には静かな空間を用意し、視覚過敏の利用者の作業台は壁に向いているなど快適に作業ができる環境にするよう配慮している。

利用者一人ひとりのニーズに応えるために、面談や連絡帳などで利用者、家族の意向を聞き、個別支援計画に反映させている。各グループでは所属する一人ひとりがその人らしさを発揮できるようにプログラムを計画し、実施している。授産活動では、他のグループへの参加や、地域のワークへの参加など多様な活動を支援している。活動計画は各グループの職員に任されており、担当職員は利用者をよく理解したうえで計画を立てることができている。

作業工賃は工賃評価表で評価され決められる。工賃や工賃評価のための説明書は利用者に配布され、評価改定等の場合は家族会で説明している。売り上げ等を勘案して時給単価を上げることができた時は、説明を適宜して働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている。また、就労可能な利用者には、面談等で希望を聞き、必要に応じて法人内にある「就労支援センターあいる」と連携をとり就労支援を行っている。

評価点	A
標準項目	授産活動のメニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている
	利用者が活動しやすい環境を整えている
	利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している
	工賃は利用者との合意に基づいて支給している
	利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている
	就労可能な利用者には、就労に向けた相談や具体的な支援を行っている
A+の取り組み	

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

講 評

給食は法人内の給食部門で提供している。障害者自立支援法への移行にともない、調理が外部への業務委託となり限られた予算のなかでの給食提供を余儀なくされている現状である。そのため、事業所が行った給食に関する職員アンケートの結果は良いとはいえなかった。利用者からの意見はあまりないということだが、事業所も自覚しているように給食の質の向上のために調理部門と話し合っていくことが望まれる。

食事がゆっくりの利用者や介助が必要な利用者にはペースに合わせて食事時間の設定をしている。特別食として給食を加工したり、きざみ、骨抜き、また、アレルギーに対応して、卵、青魚、乳製品を抜いたものなどを提供している。特別食は毎日食数表に氏名を明記し間違いがないように栄養士と職員で管理している。

食事時間はグループによっては大食堂ではなく、活動室で利用者同士話をしながら食事ができるようにしている。また、食堂では座席を常時決めることはなく、自由に座ることができるようになっている。お弁当を持参することも自由で主体的に自分で選択できている。

評点	A	
標準項目		利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している
		利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている
		食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

講 評

排泄誘導が必要な利用者には時間をみて声かけをしている。歯磨き援助は昼食後、現在10人を対象に行っている。口の周りの筋肉が硬い利用者が多く、口のマッサージからはじめブラッシングを丁寧に行っている。職員は障害者が歯科を受診する場合に困難があること、そして予防が重要であることをよく認識し、家庭では手が行き届きにくい部分の支援を行っている。

身の回りのことについては個別支援計画に記載され、利用者の個別のニーズに応じた援助を行っている。ロッカー又は引き出しを個別で持っており、自分で管理するようにしている。自分である程度できる利用者には荷物が多くなった時などに注意を促し、自分で整理できるように援助している。

通所は公共交通機関利用、又は徒歩など自力で行うことを原則としているが、利用者の状況を考慮して数名の送迎を行っている。送迎車両のための運転スタッフを雇用することは現時点では難しく、職員が送迎を担当している。同じ建物内にある法人の事業所との連携が持てると、より効率の良い送迎手段が考えられるのではないと思われる。

評点	A	
標準項目		利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている
		必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講 評

健康診断は年2回の内科検診、年1回の歯科検診、耳鼻科検診で行われている。また、法人の医務室にて内科、外科、精神科の嘱託医が毎月定期的に相談日を設けており、診察及び健康相談サービスを行っている。法人所属の看護師は常駐しており、毎日事業所を巡回して利用者の様子を把握し、必要に応じて個別に情報提供等を行っている。

通院や服薬に関する助言は看護師と協議して行っている。必要に応じて主治医と連絡を取ったり、職員が直接医師と面接をして利用者の情報を得るなどしている。知りえた必要な情報は支援記録に記述し職員間で共有し、連絡帳

等で家族との情報交換をしている。

服薬援助は家族と連携をとり、連絡帳で確認することになっている。毎日連絡帳に添付されるか、一週間分を預かるなど個別の対応をしている。利用者自身が管理できる場合は担当職員が必ず飲んだことを確認している。利用者に急な体調変化が起きた場合は、法人所属の看護師が対応する。また、緊急の場合に備えAEDが設置されている。

評点	A	
標準項目		健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている
		必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている
		服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている
		利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講 評

各グループごとに毎月1回の外出プログラムのためのアンケートを実施し、利用者の意向を組み入れて計画されている。外食や半日外出、1日外出などを計画し、外出してお金を使う体験を盛り込むなど、グループの特性に合わせた内容にするようにしている。年に1回はグループごとの1泊旅行も計画されている。

作業部屋は採光、換気等に配慮している。また、音に敏感な利用者が多いため、部屋を細かく区切り居心地の良い環境にするようにしている。利用者が増え、事業所は限られたスペースをいかに有効に使うか試行錯誤している様子がみられるが、一部に迷路のような印象を持った。利用者の特性に配慮すると区切らざるを得ないスペースだが、安全性にも配慮したものになるよう工夫が望まれる。

パンの製造販売をしているグループはエンジョイタイムとして月1回半日のレクリエーションを計画する。利用者が主体となって内容を決め、計画実行のための手立ても考えて行っている。

評点	A	
標準項目		行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
		室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
		日常の生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考にし見直しをしている
		利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている
		行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講 評

家族との連携は連絡帳を通じて行っている。職員は毎日の利用者の様子について細かく伝え、家族からは家庭での状況や本人の意思について確認したことを知らせてもらっている。それにより、家族から他の作業への体験希望があり、個別メニューを実施し対応した事例もある。支援記録に経緯は記述され、その後の支援や個別支援計画に反映されている。

事業所の現況や、利用者の日常の様子は広報誌「まめのきもち」で伝えている。また、家族との交流・家族会の支援として、家族連絡会、グループ家族会が組織され、家族と職員との交流事業、家族会の活動支援の実施が重要事項説明書に明記されている。家族会は2ヶ月に1回開催され、事業所からの様々な情報伝達の場となっている。

毎年利用アンケート調査を家族に実施し、細かい項目を設け事業所の活動についての意見を集計している。集計結果と、出された意見についてまとめ、質問に答える形で報告書を各家庭に配布している。家族からの質問や疑問点に真摯に向き合い、それに対しひとつひとつきちんと答え、貴重な意見として受け取る事業所の姿勢は、家族との信頼関係を構築していくための取り組みとして評価される。

--	--

評点	A
標準項目	○ 家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
	○ 利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている
	○ 必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講 評

土曜日曜の休日の行事を行う市内サポートネットの情報や、サークル活動のお知らせは利用者に適宜配布し、掲示板にも掲示している。建物内には同じ法人の複数の事業所が入り、多種の事業を実施している。生活支援、就労支援の部門もあり多くの情報が入手できる環境にある。事業所はそこから利用者に必要な情報をより適切に整理して提供するしくみを作る必要性を感じている。

ガイドヘルパー制度やショートステイ制度の情報を知らせ利用を勧めるなど、利用者の状況に応じて、地域での生活の幅を広げ生活の質の向上にもつながる活動への支援をおこなっている。同一フロアにある法人内の「地域生活支援センターぴーと」へ登録している利用者もあり、個別に支援が行われている。

評点	A
標準項目	○ 地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
	○ 必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.